

しまくとぅば普及関係者各位

沖縄語教育研究 10

異なる書法による沖縄語の文面の比較 (5枚)

2010年3月12日

沖縄語研究家 船津好明

本稿では、沖縄語の書法の違いを比較し易いように、音声題材を同じにして二つの書法で書いてみました。各書法は公開されている次の文献に従っています。

文献1、船津好明著「美しい沖縄の方言(ことば)」技興社、1988年4月。

文献2、宮里朝光等著「沖縄ぬ暮らしと昔話」沖縄語普及協議会、2006年7月。

題材の原文は「沖縄語辞典」(国立国語研究所編)22頁の民話で、話者は島袋盛敏氏、首里言葉で話しています。ただし、今後の沖縄語の大衆的発展のために、話者の発音のうち土族的なところ(琉歌を除く)は平民的な発音に直しました。具体的には、sja(しゃ) sa(さ)、ɕi(すい) si(し)、sju(しゅ) su(す)、ɕe(せ) se(しえ)、sjo(しよ) so(そ)、ɕi(つい) ci(ち)、zi(ずい、づい) zi(じ、ぢ)、詠なびたん 詠まびたん。

漢字の取り扱い方は各書法に従います。船津好明の書法では読み音と意味が日本語と関連していることを原則に、若干の例外を設けます。本稿での例外は「妻(どじ)」、「男(みきが)」です。宮里朝光氏等の書法は、文献2の[5]頁までによります。

1、船津好明の書法による文面

沖縄語独特の音は沖縄文字で一字一音で書きます。日本語と同じ音は日本語と同じ書き方とします。漢字にはすべて振り仮名を振ります。送り仮名は日本語の作法に合わせてます。首里、那覇、中部、南部等、沖縄語圏の全ての言葉を例外なく表せます。琉歌の表記にも適しています。

ちど はなう ち めなく はなし
夫ぬたみなかい鼻押し切っちゃうる女ぬ話

くすーよー うちなー にかしはなしうちなーぐち はなし うむ
御衆様、くりから沖縄ぬ昔話 沖縄口っしう話 しえーやーんで思

とーいびーん。

にかしすい はなし いっぺーちゅ めなくどじ ちゅ ち
昔 首里なかいあたる話 やいびーしが、一杯清ら女妻そーるっ人ぬ居

いびーたん。どじ ちゅ ちと どじ ゆす ふい
いびーたん。妻ぬどく清らさぬ、夫ーくぬ妻ぬむしか余所に引かさりー

くと ね あさ ばぬ しわ
る事ー無ーんがやーんでち、朝ん晩んちゃー心配びけーいそーいびーたん。

ぞく心配さる故がやいびーたら、くぬ夫ー重病気かかて次第弱いっし、
 なーや今日い明日いんで言るさくたきちきやびたくと、妻んかい向かて、
 「なー我んねーうかーさど多さる。やーや我ーがまーしどんしえー、また
 ちどむ 夫持ちゆらやー。」んで言びたん。さくどくぬ妻ぬ言一分ぬ、「我んねーく
 まんかい来やる以上やくまど死に所、くまやか外ーまーんかいん行ち
 やびらん。御所ーゆーちらん無ーん心配しみそーらん如、早くはしつと成
 いみしえーる如しみしえーびれー。」んで言びたん。やいびーしが、くぬ夫
 ー、「妻ぬあん言ちゃんてーまん、胴ぬ死ねー如何ーが成て行ちゆら分か
 らん。あー残念、死じん死ならん。」んで言ち、涙んでーん落とする様子
 やいびーたん。あんさくど、くぬ妻ー、「御所がうり程心配しみしえー
 らー、我ー覚悟御目掛きやびら。」んで言ち、下から包丁持っちつ来、胴
 ぬ鼻押し切っち見しやびたん。くぬ妻ー影姿んっ人勝い、立ち勝て
 ちゆ 清らさいびーたしが、肝心んまたどつと見事に持っちよーる女やいび
 ーたん。夫ーくぬ有様見ち、心ぬ底から疑ーぬ晴りたくと、うりか
 らー心許ち、日やくーどぐーど病気ん益し成て、一枚一枚紙剥じ捨
 てーんねー、ちゆーちゃんはしつと成て、快気御祝ーんでーする如成いび
 たん。あんし元ぬ体成て見ちゃくと、鼻押し切っちやる妻ぬ影ぬ、元
 ぬ姿ど比びて二目とー見たらん成やびたん。命救て呉たる恩義ぬある
 ぞじ 妻やいびーしが、うりからーすそーん軽ーんっし、後ぬうんじゆみねー、
 「やー面ー見たらん。出じて行き。今出じて行き。只今出じて行き。」ん
 いで言ち、うぬ妻追放て、また、別から新妻どめーいびたん。当た前ぬ

^{きど}夫^どんやれー、^{どー}胴^{はなう}ぬ^ちたみに^{どじ}鼻^{ちゃ}押し^{かーぎ}切^なっちゃる^な妻^な如何^なっさ^な影^な変^なわい^な成^なて
 ん、^{うむ}ゆ^{はくじょー}くん^{ちと}思^{まくと}り^{うま}わ^{ぬき}ど^{ぬき}や^{ぬき}い^{ぬき}び^{ぬき}ー^{ぬき}しが、^{はくじょー}く^{ちと}ぬ^{まくと}薄^{うま}情^{ぬき}ぬ^{ぬき}夫^{ぬき}ー^{ぬき}誠^{ぬき}に^{ぬき}思^{ぬき}ー^{ぬき}らん^{ぬき}男^{ぬき}
 やいびーたん。

^ぐう^{るくにん}り^たから^{じゅーぐ}5、^や6^や年^やて^やが^やる^やー^や経^やち^や、^{じゅーぐ}十^や五^や夜^やや^やて^やー^やい^やぎ^やさ^やい^やび^やー^やしが、
^{はくじょー}く^{ちと}ぬ^{あとどじ}薄^う情^ちぬ^{ちちなが}夫^{はなう}ぬ^ち、^{はなう}後^ち妻^ちと^ち押^ちし^ち連^ちり^ちて^ち月^ち眺^ちみ^ちす^ちし、^{はなう}鼻^ち押し^ち切^ちっちゃる^ち
^{さちどじ}先^{んー}妻^ちぬ^ちう^ちり^ち見^ちち、^ち「^ち月^ちや^ち昔^ちか^ちら^ち変^ちわ^ちる^ち事^ちね^ちさ^ちみ、^ち変^ちわ^ちて^ち行^ちく^ち物^ちや^ち人^ちぬ^ち
^{くくる}心^ち」^ちん^ちで^ち言^ちる^ち歌^ち詠^ちま^ちび^ちたん。^ちさ^ちく^ちど^ちふ^ちる^ちま^ちし^ちー^ちむ^ちん、^ち今^ちま^ちで^ちさ^ちや^ちか^ち照^ちて^ち
^{ちち}を^ちた^ちる^ち月^ちぬ^ち、^ち只^ち今^ちか^ちち^ち曇^ちて^ち、^ちふ^ちで^ちー^ち雷^ち鳴^ちい^ち崩^ちり^ちて^ち、^ちう^ちぬ^ち薄^ち情^ちぬ^ち夫^ち婦^ち
^だん^ち達^ちぬ^ち上^ちん^ちか^ちい^ち雷^ちぬ^ち、^ちだ^ちて^ちー^ちん^ちな^ち音^ち立^ちて^ちて^ち落^ちて^ちた^ちん^ちで^ちる^ち話^ちや^ちい^ちび^ちー^ちん。
^{みじら}ど^ちー^ちど^ち珍^ちし^ちー^ち話^ちー^ちあ^ちい^ちび^ちら^ちに。

.....

2、宮里朝光氏等の書法による文面

日本語にない音も日本文字で書きます。漢字は、読み音とは関係なく、意味をよく表していると思う日本語の漢字を使います。日本語で読める漢字にはルビを付けません。沖縄語として読み慣れていると思う漢字にもルビを付けません。以下でルビを付けた漢字は、次に出てきて読み方が同じ場合ルビを付けません。送り仮名は日本語に合わせません。文献2に掲げてある一覧表の文字だけでは、沖縄語圏の言葉を十分に表すことはできません。琉歌も書けません。

夫^{をうとう}ぬ^うた^ちみな^{ういなく}かい^{ういなく}鼻^{ういなく}押し^{ういなく}切^{ういなく}っちゃる^{ういなく}妻^{ういなく}ぬ^{ういなく}話^{ういなく}

^{ぐすーよー}皆^{んかし}様^{ばなし}、^{ぐち}くり^{ぐち}から^{ぐち}沖^{ぐち}縄^{ぐち}ぬ^{ぐち}民^{ぐち}話^{ぐち}沖^{ぐち}縄^{ぐち}弁^{ぐち}っ^{ぐち}し^{ぐち}う^{ぐち}話^{ぐち}し^{ぐち}え^{ぐち}ー^{ぐち}や^{ぐち}ー^{ぐち}ん^{ぐち}で^{ぐち}い^{ぐち}思^{ぐち}と
 ー^{ぐち}い^{ぐち}び^{ぐち}ー^{ぐち}ん。

^{をう}昔^{どうく}首^{をう}里^{ゆす}な^{ふい}かい^{ふい}あ^{ふい}た^{ふい}る^{ふい}話^{ふい}や^{ふい}い^{ふい}び^{ふい}ー^{ふい}しが、^{いっぺーちゅ}大^{いっぺーちゅ}層^{いっぺーちゅ}美^{いっぺーちゅ}ら^{いっぺーちゅ}女^{いっぺーちゅ}性^{いっぺーちゅ}妻^{いっぺーちゅ}そ^{いっぺーちゅ}ー^{いっぺーちゅ}る^{いっぺーちゅ}人^{いっぺーちゅ}ぬ^{いっぺーちゅ}
^{をう}居^{どうく}い^{をう}び^{ゆす}ー^{ふい}たん。妻^{ふい}ぬ^{ふい}大^{ふい}変^{ふい}美^{ふい}ら^{ふい}さ^{ふい}ぬ^{ふい}、夫^{ふい}と^{ふい}ー^{ふい}く^{ふい}ぬ^{ふい}妻^{ふい}ぬ^{ふい}む^{ふい}しか^{ふい}他^{ふい}所^{ふい}に^{ふい}引^{ふい}か^{ふい}さ^{ふい}り
 ー^く事^{ねー}と^{ねー}無^{ねー}ん^{ねー}が^{ねー}や^{ねー}ー^{ねー}ん^{ねー}で^{ねー}い^{ねー}ち^{ねー}、^ば朝^ばん^ば晩^ばぬ^ばん^ば常^ば時^ば心^ば配^ばび^ばけ^ばー^ばい^ばそ^ばー^ばい^ばび^ばー^ば

たん。どうく心配さる故がやいびーたら、くぬ夫と一重病^{ちゅーびょーち}気かかてい
 しでーよー段々弱いっし、なーや今日ゆい明日ゆいんでい^{ちゅー}言るさく^{あちゃ}危険^{*}やびたくとう、
 妻んかい向かてい、「なー私ねーうかーさどう多^{うふ}さる。っやーや私^{わー}がまー
 しどうんしえー、また夫持ち^{っや}ゆらやー。」んでい言^{っや}びたん。さくとうくぬ妻
 ぬ言分ぬ、「私ねーくまんかい来^{どくくる}やる以上やくまどう死^すに所、くまやか外
 と一まーんかいん行^{うん}ちやびらん。貴方^{うん}じょーゆーちらん無ん心配しみそーら
 ん如^{ぐとう}、早^{ふえー}くはしっとう成^ないみしえーる如^なしみしえーびれー。」んでい言
 びたん。やいびーしが、くぬ夫と一、「妻ぬあ^いん言^いちやんてーまん、自分^{どー}ぬ
 死ねーちゃーが成^いてい行^いちゆら分^いからん。あー^い残念^い、死^いじん死^いならん。」
 んでい言^いち、涙^{なだ}んでーん落^うと^{よーし}うする状^い況^いやいびーたん。あ^いんさくとう、く
 ぬ妻^{うんじゅ}じえー、貴^{ふどう}方^{ふどう}がう^いり^い程^い心^い配^いしみしえーらー、私^{わー}決^{わー}心^{わー}御^{わー}覧^{わー}や^{わー}び^{わー}ら。」
 んでい言^いち、台^{しむ}所^{しむ}から包^{ほー}丁^{ちやー}持^いち^い来^い、自分^みぬ鼻^い押^いし切^いち^い見^いし^いや^いび^いたん。
 くぬ妻^{かー}じえー容^{かー}姿^{ぎしがた}姿^{ちゅ}ん人^{ちゅ}勝^{ちゅ}い、立^{ちゅ}ち勝^{ちゅ}てい美^{ちゅ}人^{ちゅ}ら^{ちゅ}さい^{ちゅ}びー^{ちゅ}た^{ちゅ}しが、
 ちむくくる^{ちむくくる}気^{ちむくくる}立^{ちむくくる}ん^{ちむくくる}また大^{ちむくくる}変^{ちむくくる}立^{ちむくくる}派^{ちむくくる}に持^{ちむくくる}ち^{ちむくくる}よ^{ちむくくる}ー^{ちむくくる}る^{ちむくくる}女^{ちむくくる}性^{ちむくくる}や^{ちむくくる}い^{ちむくくる}び^{ちむくくる}ー^{ちむくくる}た^{ちむくくる}ん。夫^{ちむくくる}と^{ちむくくる}ー^{ちむくくる}く^{ちむくくる}ぬ
 有^{んー}様^{すく}見^{うた}ち、心^{くくる}ぬ^{ふいー}底^{くくる}か^{ふいー}ら^{ふいー}疑^{くくる}げ^{ふいー}ー^{ふいー}ぬ^{ふいー}晴^{くくる}り^{ふいー}た^{ふいー}く^{ふいー}とう、う^{くくる}り^{ふいー}か^{ふいー}ら^{ふいー}ー^{ふいー}安^{くくる}心^{ふいー}ち、日
 やく^{くくる}ー^{ふいー}とう^{くくる}ぐ^{ふいー}ー^{ふいー}とう^{くくる}病^{くくる}気^{ふいー}ん^{ふいー}益^{くくる}し^{ふいー}成^{くくる}て^{ふいー}い、一^{くくる}枚^{ふいー}一^{くくる}枚^{ふいー}紙^{くくる}剥^{ふいー}じ^{くくる}捨^{ふいー}て^{くくる}い^{ふいー}ー^{ふいー}ん^{くくる}ね^{ふいー}ー、
 ちゅ^{くえー}ー^{ちゅー}ちゃん^{ちゅー}は^{くえー}し^{ちゅー}っ^{ちゅー}とう^{ちゅー}成^{くえー}て^{ちゅー}い、快^{くえー}気^{ちゅー}御^{くえー}祝^{ちゅー}う^{くえー}え^{ちゅー}ー^{ちゅー}んで^{くえー}ー^{ちゅー}する^{くえー}如^{ちゅー}成^{くえー}い^{ちゅー}び^{ちゅー}たん。
 あ^{むと}ん^{からた}し元^{むと}ぬ^{からた}体^{むと}成^{からた}て^{むと}い^{からた}見^{むと}ち^{からた}やく^{むと}とう、鼻^{むと}押^{からた}し^{むと}切^{からた}ち^{むと}ち^{からた}やる^{むと}妻^{からた}ぬ^{むと}容^{からた}姿^{むと}ぬ、元^{むと}ぬ
 姿^{たみ}と^{たみ}う^{たみ}び^{たみ}て^{たみ}い^{たみ}二^{たみ}目^{たみ}と^{たみ}ー^{たみ}見^{たみ}だ^{たみ}ら^{たみ}ん^{たみ}成^{たみ}や^{たみ}び^{たみ}たん。命^く救^いて^くい^く呉^いた^くる^い恩^く義^いぬ^くあ^いる^く
 と^とう^とじ^と女^と房^とや^とい^とび^とー^としが、う^かり^かか^から^かー^かす^かそ^かー^かん^か軽^かろ^かー^かん^かっ^かし、後^あぬ^あう^あん^あじ^あゅ^あみ^あね
 ー、「っ^ちや^ちー^ち顔^ちら^ちー^ち見^ちだ^ちら^ちん。出^{つん}じ^いて^いい^い行^いき。今^い出^いじ^いて^いい^い行^いき。即^た刻^た出^たじ^た

てい行き。」んでい言ち、うぬ妻^{つうい} 追 放てい、また、別から新妻^みとうめー
いびたん。当たい前ぬ夫どうんやれー、自分ぬたみに鼻押し切っちゃうる女房
ちゃっさ^{かーぎ} 面 変わい成ていん、ゆくん思りわどうやいびーしが、くぬ薄情ぬ
夫とー^{まくとう} 全然に思まーらん^う 夫^{ういきが} やいびーたん。

うりから^{ぐるくにん} 数 年 ていがるー^{たっ} 経過ち、十五夜やてーいぎさいびーしが、く
ぬ薄情ぬ夫ぬ、後妻とう押し連りてい^ち 月^{ちちながみ} 見すし、鼻押し切っちゃうる^{さち} 先妻
ぬうり見ち、^{*}「月や昔から変わる^{くとう} 事 ねさみ、変わてい行く物や^{むぬ} 人^{ふいとう} ぬ心」
んでい^{*} 言う^{うたゆ} 琉歌詠まびたん。さくとうふいるましーむん、今までいさやか^{てい} 照
ていを^{たてーま} ったる月ぬ、突^{くむ} 然^{かんない} ち曇てい、ふでいー^{くじ} 雷 鳴い響りてい、うぬ
薄情ぬ^{みーとうんだ} 夫^{つうい} 婦ぬ 上^{うとう} んかい雷ぬ、だてーんな音 立ていてい落ていたん
でいる話やいびーん。^{どーどーみじら} 大 変 珍 しー話しえーあいびらに。

注1、上記の*印のルビは、宮里朝光氏等の表記指導書である文献2の[1]頁の右側の文字一覧表には該当文字がありません。

注2、宮里朝光氏は、沖縄タイムス2007年12月29日の「わたしの主張・・・」の頁と、沖縄語普及協議会の沖縄語新聞第23号で、「女」を首里では「をいなぐ」というと述べておられますが、「をい」という表記は、前記の一覧表にありません。また、同一覧表には「ゆ」の破裂音がないなど、同一覧表の文字で首里言葉を表すことはできません。

注3、上記の宮里朝光氏等の書法による文面は、文献2の書法に従って筆者が書いたものです。書き手が変わると文面が変わると思います。

連絡先

〒1870002 東京都小平市花小金井2-6-1

船津好明

Tel 042-467-1273

Email funatsu@mvf.biglobe.ne.jp